

商船三井、アドバンス型障害物認識システム海上実験

Edited By LogisticsToday On 2018/09/26



商船三井は26日、英ロールス・ロイス社と、商船三井グループのフェリーさんふらわあが瀬戸内海で運航するフェリーで、アドバンス型障害物認識システム「インテリジェンス・アウェアネス・システム」(IAS)を搭載した実証実験を行ったと発表した。

商船三井は安全運航・効率運航のさらなる向上を目指した自律航行船の実現に向けて積極的に技術開発を行なっている。自律航行には、見張りの高度化・自動化、遠隔操船・自動操船(自動避航)、自動離着岸、機器・貨物などの遠隔モニタリング船舶間自動通信などの要素技術が必要とされ、本件はそのうち船橋からの見張りの高度化に関する研究となっている。

一般商船、プレジャーボート、漁船などが行き交う、世界でも有数の混雑海域である瀬戸内海で実証実験を行ったことで、多くの障害物の検知やデータ融合の性能を検証し、乗組員からも「より確実な船橋からの見張りが期待できる」といった評価を得ており、的確な情報提供ができる先進のユーザーインターフェースの考案を行った。今後はさらに瀬戸内海の航行に適した見張りの性能の向上や、悪天候下での性能を高めるため、海域データの取得を継続し実用化に向けて研究を進める計画。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>
URL to article : <http://www.logi-today.com/326427>
Copyright © 2019 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.